



新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉100歳の誕生日まであと1年4か月

発行 新美南吉生誕100年記念事業実行委員会 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内 **南吉生誕100年**



青空に輝く茅葺屋根

公益財団法人かみや美術館分館「南吉の家」
修復工事完成



(写真) 茅葺屋根が葺き替えられたばかりの「南吉の家」

一 二月末、公益財団法人「南吉の家」(半田市平和町七丁目)で行われていた修復工事が終わり、三月から公開が再開されました。

「南吉の家」は、大正十年、新美南吉が八歳で養子に出され、五か月ほどの間、継祖母の志もと二人きりの生活をおくった新美家(実母り糸の実家)の家屋で、童話「小さい太郎の悲しみ」や小説「川」へA」などに描かれています。

志もの死後、しばらく空

き家になって荒れ果てていましたが、弁護士で後にかみや美術館を設立した故神谷幸之氏が買い取って修復、南吉没後三十年の昭和四十八年から公開を始めました。田の字型に部屋を配置し、ニワと呼ばれる土間を広くとった伝統的な農家建築で、半田市の有形文化財にも指定されています。

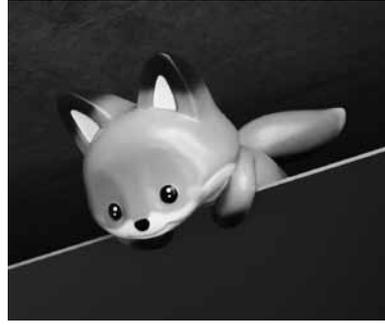
平成二十一年の台風十八号で茅葺屋根が破損していましたが、岐阜県白川郷から招かれた職人たちによって二十日余りかけて葺き替えられました。使用した茅はこのために栽培したものだそうです。瓦もすべて外し、一枚一枚磨いてから元に戻されました。歪んでいた軒や傷んでいた板壁部分も補修され、銅製の雨どいも新調されました。

生誕百年没後七十年を前に美しくよみがえった「南吉の家」(養家)をぜひ訪れてみてください。

※家屋内部と裏にある土蔵の資料館を見学するためには予約と入場料(三百円)が必要です。

かみや美術館 電話〇五六九―二九―二六二六

いたずら子狐がお出迎え 新美南吉記念館の展示リニューアル第一弾



昨年十月、新美南吉記念館では、館内のごろどころに愛らしい子狐の人形を取りつけました。これは小さなお子様にも記念館を楽しんでいただきたいという思いから、新美南吉生誕百年に向けた展示リニューアルの第一弾として行ったものです。

新美南吉記念館には、幼児からお年寄りまで毎年五万人を超える方が訪れます。しかし、実際のところ、まだ字の読めない小さいお子様は、ほとんど展示が理解できません。そうしたお子様連れのご家族にも、家に帰って「南吉さんの記念館、楽しかったね」「小学

生になったらまた行こうね」と会話していただけるような記念館に、この子狐たちがしてくれるのではないかと期待しています。

子狐たちは合計六匹で、入口の天井付近や中庭などに、あまり目立たない場所にいます。ふとした拍子に気付くお客様を驚かさうと隠れているのです。でも、一人で六匹全部を見つるのはよほど小さなお子様でないと無理なんです。(というより見つけたら問題…) どうしてかって？ それは記念館に来て確かめてください。

そのほか、展示室の電子紙芝居も新しく「大力の黒牛と貨物列車の話」に替わりました。手動再生で液晶画面の一部に触ると、牛が鳴いたり小鳥が飛び出したりするなど、こちらも気持ちいいアイテムが楽しめる隠しアイテムが仕掛けられています。

平成二十四年度には、「手袋を買いに」に登場する帽

子屋の原寸大模型や東京時代の下宿部屋の再現などのリニューアルが計画されています(十二月に一時休館予定)。生誕百年の一月には、さらに楽しく魅力的な記念館になって皆様をお迎えしたいと思っています。

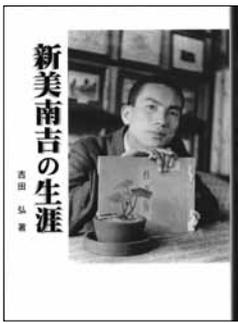
記念出版もぞくぞく

伝記、英訳、絵本…、新美南吉生誕百年に向けた記念出版の数々をご紹介します。いずれも新美南吉記念館で販売しているほか、新樹社の絵本は全国の書店で購入できます。

『新美南吉の生涯』

吉田弘著

税込二一〇〇円



常滑市在住の元教諭で南吉研究家の吉田弘さんが自費出版した南吉初の本格的伝記。南吉の生涯と創作活

動を、日記、手紙、作品なども織り込みながら、詳しく紹介しています。

『Sorrow of a Snail-でんむしのかなしみ-』

蜂須賀幸路他訳

石川靖子他 絵

税込一五〇〇円



童話「でんむしのかなしみ」「赤いろうそく」と詩「天国」の三編を収めた英訳絵本。企画・出版した半田国際交流協会では、「絵本を参考にして、半田の子どもが外国人に英語で南吉童話を紹介できるように頑張ってほしい」と期待しています。

「でんむしのかなしみ」

税込二二六〇円

「こんぎつね」

税込一四七〇円

鈴木靖将絵・新樹社刊
新樹社(東京)による新美南吉生誕百年記念絵本シ

リーズの第一弾と第二弾。いずれも万葉集をテーマとした創作で知られる滋賀県在住の日本画家、鈴木靖将さんが絵を手掛けています。丁寧な自然描写と愛嬌のある表情が特徴的で、これまで数多く出版された南吉絵本とはまた違った趣と魅力を持っています。

この二冊の絵本を通して、悲しみの中にも生きる勇気を見つけてもらおうと、三月十日(土)から約二週間、東日本大震災の被災地である福島県南相馬市や会津若松市で原画展が開催されました。会場では、鈴木さんが希望者の似顔絵を描いて、被災した方々を励ましていたそうです。





ふるさと半田と女学校
 教諭として充実した
 日々を送った安城。南吉ゆ
 かりのそれぞれの町に、南
 吉童話の世界を描いた大型
 壁画がお目見えしました。
 まずは三月十日(土)に
 除幕式が行われた社会福祉
 法人半田同胞園(半田市栄
 町)の陶壁「新美南吉の詩」
 三十七センチ四方の陶板八十
 枚で構成される縦一・二
 メートル、横六メートルの

街を彩る 南吉童話の世界

～半田同胞園・安城駅前商店～

大画面の中には、楽しみに
 歩く狐の親子を中心に、ラ
 ンプ、牛、新美南吉記念館
 などが立体的かつ色鮮やかに
 表現されています。原画
 は同胞園近くに住む洋画家
 志賀源吾さんが描き、「常
 滑陶彫会」のメンバー(上
 写真)が約一年をかけて制
 作しました。

ただけるものをと考え、地
 元の作家である新美南吉の
 世界を隣の常滑の焼き物
 で表現しようということに
 なったそうです。

一方、安城では、JR安
 城駅前の御幸商店街とセン
 トラル商店街で、七店舗の
 外壁など計八か所に南吉や
 その作品をモチーフにした
 絵が描かれました。これは
 商店街の賑わい創出を目的
 に愛知県が行った事業で、
 昨年十一月二十六日(土)
 に完成披露式典と記念朗読
 会が開かれました。

安城高等女学校での教諭
 時代、南吉は通勤のために
 安城駅前の通りを毎日歩い
 ていました。周辺には、今
 回、絵が描かれた文具店「博
 文堂」や料亭「吉野屋」な
 ど、南吉の日記に登場する
 店も数多く残っています。

喫茶「巳松」では、本を
 読んでいる南吉像や「花の
 き村と盗人たち」など安城
 時代に書かれた童話の世界
 が東西両面の壁いっぱい
 描かれました(下写真)。

ここは四月から南吉をテー
 マにしたカフェとして再生
 する予定で、南吉ファンに
 とっては、壁画巡りとあわ

FMAICHI
南吉の詩を毎週放送

愛 知県を中心とした中
 部圏に向けて放送さ
 れているラジオ局、FMA
 ICHI(株式会社エフエ
 ム愛知/80.7メガヘル
 ツ)で四月から新美南吉の
 詩を朗読する番組が始まり
 ます。



せて第二のふるさと安城を
 訪れる楽しみが増えること
 になります。

生誕百年に向け、町のあ
 ちこちで南吉童話の世界と
 出会えるようになること
 で、より一層、南吉が地域
 に愛されていくことを願っ
 ています。

シリーズ「南吉のつばや
 き」と題されたこの番組は、
 同局の新美南吉生誕百年事
 業として企画されました。
 放送は毎週土曜日の朝七時
 二十分頃からの五分間(ワ
 イド番組「サタデーエクス
 プレス」内)で、来年三月
 まで五十回以上を予定して
 います。

朗読は、東海地方で活躍
 する役者や劇団員が月替わ
 りで担当し、単なるナレー
 ションではない、味わいの
 ある語りを目指します。企
 画した構成作家の高橋真裕
 美さんは、「南吉の〈言葉〉
 と朗読者の〈声〉、二つの
 力を併せ、聴く人に無限の
 イメージを届けるラジオな
 らではの番組にしたい。一
 年を通して取りあげること
 で、地元作家である新美
 南吉の魅力を再認識する機
 会になると思う。」と語っ
 てくださいました。

*
 へ4月の放送予定
 7日 「貝殻」
 14日 「窓」ひかる
 21日 「春風」
 28日 「春の電車」
 朗読・榊原忠美(劇団クセツ
 クACT)

生誕百年記念巡回展 開催 全国五会場・兵庫県丹波市からスタート

四月十四日（土）、兵庫県丹波市の丹波市立植野記念美術館（電話〇七九五・八二一・五九四五）で、「新美南吉生誕100年 どんぎつねの世界」展が開幕します。

この展示会は、平成二十五年の新美南吉生誕百年を記念し、半田市・半田市教育委員会・毎日新聞社

ほかの主催で全国五か所（現在の予定）の会場を回る巡回展です。

新美南吉の巡回展はこれが二度目。前回は平成元年三月から二年半をかけて全国を回り、十四万人以上に観覧いただきました。それ以来ですから、じつに二十一年ぶりの巡回展です。その間、平成六年には新

美南吉記念館がオープンし、記念館の調査で新たに発見、収集された資料も多くあります。今回の巡回展では、そうした新美南吉記念館以外では初公開の資料がいくつも出品されるほか、南吉が着た背広や最初の単行本『良寛物語 手毬と鉢の子』の検印に用いた

「にいみ」の印鑑など、記念館でも普段は展示されていない貴重な遺品類を見ることが出来ます。

また、第一童話集『おぢいさんのランプ』を担当し

た棟方志功や、現代日本を代表する絵本画家十一人による南吉作品の挿絵原画も一堂に展示します。

新美南吉の生涯と作品世界を、豊富な資料と美しく多彩な原画で堪能できる贅沢な展示会です。ぜひご覧ください。

原画出品画家

池田あきこ／石倉欣二／太田大八／かすや昌宏／黒井健／篠崎三朗／杉浦範茂／高野玲子／長野ヒデ子／二俣英五郎／棟方志功／渡辺洋二（敬称略・五十音順）



<開催予定>

- 丹波市立植野記念美術館（兵庫県丹波市）
平成24年4月14日（土）～6月17日（日）
- 堺市立東文化会館（大阪府堺市）
平成24年6月30日（土）～8月7日（火）
- 北海道立文学館（北海道札幌市）
平成24年9月8日（土）～10月21日（日）
- ジェイアール名古屋タカシマヤ（愛知県名古屋市）
平成24年12月26日（水）～平成25年1月7日（月）
- 静岡市美術館（静岡県静岡市）
平成25年2月23日（土）～3月31日（日）

※開催日は変更されることもあります



『日本児童文学』は、一般の書店で取り寄せることができます。（発売・小峰書店 定価一〇五〇円）

「南吉を書こう」と銘打ったこの企画には、詩一編を含む五十八編が応募されました。オマージュ作品とは、尊敬する作家から影響を受けて創作される作品のこと。「手袋を買いに」からイメージされた「タンポポサラダ」（佐野橙子）をはじめ、入賞作品はいずれも南吉作品への愛情に溢れた作品ばかりです。

「南吉を書こう」 入選作品発表

社団法人日本児童文学者協会（東京都新宿区）が昨年三月から募集していた「新美南吉へのオマージュ書き下ろし作品」の入選作品が決定し、協会の機関誌『日本児童文学』二〇一二年三・四月号に発表されました。

「南吉を書こう」と銘打ったこの企画には、詩一編を含む五十八編が応募されました。オマージュ作品とは、尊敬する作家から影響を受けて創作される作品のこと。「手袋を買いに」からイメージされた「タンポポサラダ」（佐野橙子）をはじめ、入賞作品はいずれも南吉作品への愛情に溢れた作品ばかりです。